設置・取扱い上のご注意

水配管工事要領について

- 蓄熱水に使用する水は冷凍空調器水質ガイドライン（JRA-GL02-1994）に従ってください。
- 氷蓄熱ユニットへの給水の水圧は0.02～0.2MPa（0.2～2kg/cm²）としてください。
- 給水配管を水道に直結する場合は、所轄水道局の許可が必要な場合がありますのでご確認ください。

既設冷媒配管の流用について

- 既設冷媒配管を流用する場合は必ず更新専用機をご採用ください。

設置場所について

- 運転音の値は無響室換算した時の製品正面側での値です。実際に据付けた状態では、周囲の騒音や反響などの影響を受けます。また、インバータ機の場合、最大負荷運転時、製品の表示値＋3dBAの運転音となる場合がありますのでご注意ください。設置場所において周囲への騒音が懸念される場合は防音壁を設置することをおすすめします。
- 室内ユニットを含め、切削油など鉱物油の立ち込める雰囲気の場所には設置しないでください。
- 酸性またはアルカリ性雰囲気の場所には設置しないでください。
- 沿岸部など潮風の影響を受ける場所には、耐塩害仕様または耐重塩害仕様の室外ユニットと氷蓄熱ユニットをおすすめします。
- 可燃性ガスの漏れる場所や引火物のある場所には設置しないでください。火災の原因となります。特に、氷蓄熱ユニットや蓄熱タンクは100℃以上の熱で変形し、発火や火災、水漏れ、強度低下の原因となります。
- 電気的なノイズが問題となるような場所では、その影響を充分に考慮した設置・機種選定を行ってください。特に電子機器類などが設置されている場所からは室内ユニットも含め、離れた場所に設置することをおすすめします。
- 台風や強風、地震も考慮し、機器質量に充分に耐えられる設置にしてください。強度不足の場合、破損や倒壊、落下をまねき非常に危険です。
- この他、工場など電圧変化の激しい場所、調理場など油の飛沫や蒸気が多く発生する場所への専用機以外の設置はお避けください。
- 空調面積に対して負荷が大きいサーバールーム等では、サーモオフ等で室温が急激に上昇する場合がありますのでご注意ください。

据付について

- 氷蓄熱ユニットは各室外ユニットに応じた専用の機種を必ずご使用ください。
- 氷蓄熱ユニットを設置する際には、床の強度を充分に配慮し、特に防水施工を必ず行ってください。
- 各機器の所要スペースを確保した併設をお願いします。
- 各機器の据付は、販売店または専門業者にご依頼ください。ご自分で工事をされ不備があると、水漏れ、漏電、倒壊などの原因となります。また『据付説明書』をよくお読みの上で、正しく据え付けてください。
- エアコンの故障が重大な影響を及ぼす恐れがある場所では、2系統以上の室外ユニットによる室内ユニットの複数台設置をおすすめします。
- 氷蓄熱ユニットの外面、架台、組立ボルトは結露する場合がありますので、基礎周囲には排水溝と排水口を設け、防水施工を行ってください。
- ヒートポンプ式の暖房は、特性として外気温度が下がるにつれて暖房能力が低下します。寒冷地など、特に外気温度が低くなる地域では能力不足の可能性もあります。また、温風が天井付近にこもり、足元が暖まらない場合も考えられます。このような場合、別途、加熱装置が必要となる場合もありますので、お買い求めの際に、販売店と相談の上で、機種やシステムを選定してください。
- 室外ユニットの容量より多い室内ユニットが接続できますが、この場合、接続された室内ユニットが同時運転した場合に定格能力を下回る場合がありますのでご注意ください。
- 氷蓄熱ビル用マルチシリーズは暖房能力が冷房能力より低くなるため、暖房負荷が高くなる場合では室内ユニットの吹出し温度が低くなりコールドドラフトなどの問題が生じます。従って、系統内の全室内ユニットが同時運転を行うケースが考えられる場合は室内ユニットの接続合計容量がシステム容量の100%以下となるよう設計してください。また、暖房負荷が高い物件では標準の冷暖房機種の採用をおすすめします。
- 室外ユニットの設置場所において吹出し方向に隣のビルや塀などの障害物が近接している場合は、ショートサーキットが生じることがあります。このような場合は弊社に設置場所についてご相談ください。
- REFNET配管部材の展開において、REFNETヘッダーの下流には分岐部を設けないでください。また、28.0・45.0・56.0kW形室内ユニットの接続もできませんのでご注意ください。
- 室外ユニットより結露水が発生する場合がありますので、基礎の周囲に排水溝を設け、機器周囲の排水に留意してください。また、屋上に据え付ける場合は、床の防水処理も必ず行ってください。

降雪・積雪について

- 積雪の多いところに据え付ける場合は、次のような対策を実施してください。
  1）降雪、積雪、落雪で埋まらないよう、室外・機能ユニットを架台（現地調達）の上に設置し、底フレームが雪面より200～300mm以上高くなるようにする。
  2）防雪フード（別売品）を取り付け、後部吸入グリルをはずす。
- 吹出口に防雪フードを取り付ける場合は、防雪フードの吹出面が冬期季節風と直角または冬期季節風に対し下流側を向くように設置してください。
- 冬期外気温度が低く、暖房時のデフロスト運転時に出るデフロスト水が凍結するところでは、室外ユニットの底フレームと基礎面の間に十分な空間を空けてください。（500～1000mm空けることを推奨します。）
- 氷蓄熱ユニットの上面の積雪が60kg/m²（30cm相当）以上になったら雪下ろしを行ってください。
- さらに積雪が多い地域では、氷蓄熱ユニットまたは、蓄熱タンクの上部に予想される積雪に充分に耐えられる強度を持った屋根を設け、直接積雪しないようにしてください。

ご使用に際して

- ご使用の前に必ず各機器の『取扱説明書』をよくお読みになった上で、正しくお使いください。
- 各機器の点検、清掃には危険を伴うものや専門技術を必要とするものがありますので、『取扱説明書』をよくお読みの上、正しく作業を行うとともに、機器内部の清掃など専門技術を必要とする作業については、必ず販売店や専門業者にご依頼ください。
- 破損、倒壊、水漏れの原因となりますので、氷蓄熱ユニットには過度の荷重が加わらないよう配慮してください。
- 氷蓄熱ユニット、架台の組立ボルトを外したり、緩めたりしないでください。強度低下による破損、倒壊、水漏れの原因となります。
- 氷蓄熱ビル用マルチシリーズに搭載する《急速蓄熱運転モード》をご使用する際には、事前に電力会社との打合せが必要です。

別売品・オプションシステムについて

- 各種別売品は、必ず当社指定の商品をご使用ください。また、取付けにおいても販売店または専門業者にご依頼ください。ご自分で工事をされ不備がありますと、性能不良の他、水漏れや漏電、倒壊、火災などの原因となります。また、取付けに際しては『据付説明書』を、ご使用に際しては『取扱説明書』を事前に良くお読みいただき、正しくお取扱いください。
- 別売品に関わらず、加湿器には上水道もしくはそれに準じた水質の水をご使用ください。尚、自然蒸発式加湿器では給水用の水にシリカを含んでいる場合、白い粉が吹出すことがありますので、水処理業者などにご相談のうえ、軽減対策をご検討ください。
- D-BACSシステムの各機種の導入には、弊社との事前の打合せが必要です。ご計画の際に弊社担当営業までお問合せください。
- Ve-upコントローラーやマスターステーションⅢのデータによる料金計算は計量法によるものではありませんので、公的取り引きには使用できませんのでご注意ください。
- Ve-upコントローラーには氷蓄熱タイプや冷暖フリータイプは、他のタイプと同一